

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市市民協働推進審議会 第10回市民協働推進基本計画策定作業部会				
事務局 (担当課)		市民協働推進課 電話042-769-9225(直通)				
開催日時		令和元年8月6日(火) 午後2時~3時45分				
開催場所		相模原市役所 会議室棟2階 第9会議室				
出席者	委員	5人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	5人(市民協働推進課長、他4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 議 題 次期市民協働推進基本計画(案)の調整について <ul style="list-style-type: none"> ・協働の定義の説明について ・アンケート調査結果等の分析の追加について ・成果指標について ・計画の全体像について 3 その他 4 閉 会				

1 開 会

傍聴者の確認を行い、第10回部会が開催された。主な内容は次のとおり。

(〇 は委員の発言、 △ は事務局の発言)

2 議 題

次期市民協働推進基本計画（案）の調整について

事務局から資料に基づき説明を行った。主な意見は次のとおり。

【主な意見等】

○審議会で意見のあった「協働」の説明における「対等の立場」については、どのように反映しているのか。

「協働」の説明については、文末に「活動すること」とあるように、実際に活動することの説明であり、改めて「活動の場における」という限定の表現を追記する必要はないと考えている。また、「協働の基本原則」の「3 役割合意と協力」においては、「活動の場における」との限定表現をしている。

○「市民主権」から市より市民が上位になることは理解するが、市民感情として、実際には、情報が集まる市が優位になる可能性が高いため、あえて「活動の場においては対等の協力関係」であることを条例に明記した経過がある。次期基本計画における表現としては、この形で良いのではないかと。

○基本施策6「地域の特色を生かした協働のまちづくり」の成果指標「住んでいる地区に愛着を感じている市民の割合」については、区民会議やまちづくり会議を活用して愛着を高めていくことで良いかと。

会議の開催回数では成果を測ることができないため、基本施策6の取組が「愛着」に直接結びつくものではないが、次期総合計画の成果指標を活用し、進行管理の目安にしたいと考えている。

○この基本施策6において成果指標を「愛着」に集約することに疑問がある。市に魅力を感じていることが、必ずしも愛着につながる訳ではない。

○アンケートでどのような質問をするかで「愛着」の捉え方が異なる。

この成果指標は総合計画審議会において検討中であり変更になる可能性はあるが、次期市民協働推進基本計画においては、総合計画の成果指標と整合を図りたいと考えている。

○街美化アダプトの作業は高齢者の立場として負担に感じており、実際のところアダプトの取組は自主的・自発的な活動となっているのか。

○街美化アダプトの取組については、毎年、市と活動申出書を締結するため、自治会の総会等で合意されなければ、活動申出書を交わす必要はない。

○街美化アダプト制度の説明において、「自主的・自発的な美化活動を推進します」

とあるが、自主的・自発的な取組は推進されるものではないため、表現を検討してほしい。また、アダプト制度の成果指標について、今後、実施箇所数を一定程度維持していくとの考え方は理解できるが、目標値が基準値より減少することに違和感があるため、設定した意図の説明を入れた方が良い。

アダプト制度の説明における表現については検討する。また、成果指標については、説明を追記したい。

○さがみはら地域づくり大学の受講者数が成果指標となっているが、受講者数の増加ではなく、受講者の満足度でも成果を測ることができるのではないかと。

○地域の人が小学校で先生になる取組があるが、さがみはら地域づくり大学の受講者が地域においてセミナーを開催したり、講演をする回数などを成果指標とすることも考えられるのではないかと。

次期市民協働推進基本計画では、担い手の増加を主な目的としているため、受講者数を成果指標としている。

○さがみはら地域づくり大学については、修了した後にそれぞれの場で活躍してもらうことが大前提であり、それを踏まえて受講者数を増やしていくのは良い。さがみはら地域づくり大学については、他都市の事例をよく調べ、前例にとらわれることなく、充実させてもらいたい。

○受講者の成果指標は理解できるが、目標が高いのではないかと。さがみはら地域づくり大学は、単純に人数で測れないものもある。

○さがみはら地域づくり大学については、修了した後に現場で活躍できる講座体系が必要であり、受講者のターゲットが曖昧になっている現状もある。講座での体験等を踏まえて、修了生自らが修了後に活動するフィールドを考えてもらいたい。

○さがみはら地域づくり大学のプログラムに体験実習を増やすと良い。

さがみはら地域づくり大学には、フィールドワークとして現場を見てもらう講座がある。また、さがみはら地域づくり大学運営委員会においては、受講者のターゲットが曖昧になっているとの議論もあり、それを踏まえ充実に向けて検討していきたい。

○さがみはら地域づくり大学の修了生で実際に活動しているのは何人くらいか。
数名である。

○さがみはら地域づくり大学の修了時に担い手を確保したい団体による活動のプレゼンテーションを開催するなど、修了生を実際の活動につなげる場があると良い。

○教育の分野では、持続可能な社会づくりの担い手を育む（E S D）教育の考え方があるが、教育委員会との連携はあるのか。

地域の人が学校教育の現場に入るなどの取組のほか、市民ファンドにおいては、教育の分野で活動する事業に対しても助成しており、それが地域の課題解決につながるものと考えている。

○全体の体系図について、「目指す姿」から「基本施策と主な事業」までのつながりが見えにくい。直接的につながりが分かるよう体系化するまでいかなくても、左から右に流れるようにすると良い。

○持続可能な開発目標（SDGs）の説明部分については、「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の下にあるターゲットの説明を入れた方が良いのではないかと。

検討したい。

○SDGsと次期市民協働推進基本計画との関係性が分かりやすいように、関連する部分を強調太字にしても良いのではないかと。

○SDGsのゴールについては、「17 パートナーシップで目標を達成しよう」以外にも関連するゴールがあるため、より具体的にイメージできるように、その他のゴールについても示した方が良いのではないかと。

市民協働は全てのゴールに関係するため、それを踏まえて6ページに「本計画との関係」という形で整理したものである。

○SDGsの説明部分においては、「協働」は全てのゴールの基本になるもので、特に「17 パートナーシップで目標を達成しよう」が関連するという流れでの説明にした方が分かりやすいのではないかと。

SDGsの説明部分については、修正したい。

○8ページ「協働の基本原則」において、「『協働』それ自体が目的ではなく、目的を達成するための手法の一つである」とあるが、協働することが目的に感じてしまう中で、この文章があると考え方の整理ができて良い。

3 その他

特になし。

4 閉会

全ての審議が終了し、閉会した。

以上

相模原市市民協働推進審議会

第10回 市民協働推進基本計画策定作業部会 委員名簿

(令和元年8月6日開催)

	氏名	現職	備考	出欠
1	和泉 広恵	日本女子大学 人間社会学部准教授	部会長	出席
2	市川 雄士	公益社団法人 相模原青年会議所 副理事長		出席
3	西本 敬	特定非営利活動法人 さがみはら市民会議 代表理事		出席
4	原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会 会長		出席
5	本間 セツ	相模原商工会議所 女性会会長		出席